



函館てらこや 学生スタッフ

函館てらこや 代表

古館 葵 大野 誠二

古館 葵 [プロフィール]

北海道教育大学函館校4年
第5回大門合同学生祭実行委員長、Code for Hakodate代表
現在は函館てらこや事務局長
卒業後は函館市内にて勤務予定

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

大野 誠二 [プロフィール]

1976年7月12日生まれ。
日新中学校、稜北高等学校、中京大学(中退)
株式会社Bande代表取締役、函館てらこや代表、
稜北高等学校同窓会 副会長

今回は、ことし5月から動き出した「函館てらこや」の活動について、代表の大野誠二さん、学生スタッフの古館葵さんにお聞きしました。

対談

丸藤 函館てらこやは、どのような活動なんですか？

大野 高龍寺梁川法務所をお借りし、子ども達から高校生、大学生、大人が集まり、遊び・学び・食事・作法を通してつながっていく場所です。

丸藤 私も先日、参加させてもらいました。ゲームをしたり、みんなで一緒に食事をしたり、お坊さんからの話を聞いたりしていましたね。平成29年の5月から始まったとのことですが、何かきっかけはあったのですか？

大野 私の先輩が全国てらこやネットワークの理事をやっております、その導きで大西理事長の話を聞いたり、横浜の活動を見たことです。函館でも形にしようと思いました。

それと、函館のことを考えてる学生と出会ってしまったのも、私が変わるきっかけになっています。こんなに函館のことを考えてくれてるのに、なぜ卒業したら残らないんだろって、てらこやという居場所ができたなら、残って来て活性化にもつながるのではと思えました。

特集

はこまち対談

「いろいろな世代があつまる
”集落“をつくりたい」



古館 私は横浜でらこやを2回見ました。普段子ども達と関わる機会がありませんので上手く接することができると不安はありましたが、この活動はしたいなと思いました。

丸藤 現場では、大人から大学生、高校生までが活き活きとそれぞれの役割を行っていて、とても楽しかったです。

大野 毎回でらこや終了後に行う振り返りに時間を費やしています。最初の頃、学生さんなどはあまり物事を決められませんでした。それで「発言するなら責任を持って実行しましょう。否定ではなく、未来のために行動すると肝に銘じて発言しましょう」と言わせてもらいました。そこにしがみついた学生が、今、「アメンバーになっていてやっと形になり動き出してきた」と感じています。

それと、今日は満足だけじゃなくて収まりたくなさそう話もしています。学生さんと朝まで語り合っこともざらにあるんですよ。熱は逃したくないので。

古館 朝まで一緒にいても苦にならないというか、楽しいです(笑)。それに学生は下の代に引き継いでいかななくてはならないので、そういう意味からも振り返りは大切だと考えています。

大野 朝まで語り合うのは、その時間がつくる信頼感を産むためです。これを、後輩達にもやっつけていこうと言っ

ます。

丸藤 子ども達の場ではありませんが、学生さんの成長の場にもなっていますね。

大野 大人スタッフの熱いサポートがあり、学生がのびのびできる環境がうまれてきています。

丸藤 高校生の活躍ぶりも凄いですね。子ども達と一瞬で仲良しになってました。

大野 学生はまず頭を使って分析するんです。でも、高校生は純粋というか目先にあるものに瞬発的に本能で取り組むんです。その辺りは、大学生が学ぶべきものだと思います。

今はまだ参加のない中学生や、おじいちゃんおばちゃんにも来ていただく、各世代がそろって集落になります。そこでお互いの顔が見えて信頼しあえて相談できたりするようになる、ひとつの完成形に近づけるのかなと思っています。

丸藤 色んな世代の方が集まると、自然と広がっていきそうですよね。

大野 企画したもののだけではなく、そこに居るだけでもためになることがある場所になればいいですね。

丸藤 今は学生さんが中心になって企画運営していますね。

古館 やっと、先のスケジュールを見ながら動けるようになってきたところですよ。

大野 やりたいと言った学生達には、

責任と覚悟がないのであれば止めましようと言っています。大人の「コマになるの」じゃなくて、自分たちが必要だと思っただことをやり続けましよう。

年齢や立場に関係なく自分が正義だと思っ事を主張して欲しいです。

でも、自分本位じゃなく相手の気持ちを受け止めたうえで発言ができるようになってもらいたいですね。

古館 大野さんには、大学の授業では考えない視点などからも掘り下げてもらっています。

丸藤 毎回、たくさん学生スタッフが集まるんですね。

大野 大学生、高校生合わせて30名くらいですか。年回ならともかく、毎月なんてあり得ないくらい凄いです。

丸藤 お寺のお坊さん達の協力内容も素晴らしいですね。

大野 永井住職は、お寺というのはそもそも人が集まる集落の中心だったというのを凄く大切にされる方で、気軽に集まれる場所と思って下さっています。それで、でらこやさんに場所を貸します好きに使ってくださいと、あり得ないくらい好意と理解をいただいています。今では、仲間として頼るパートナーになってます。

丸藤 大人数で一緒に食事をしたのも楽しかったです。

大野 担当者のこだわりで道南の食

材を使うようにしています。食器は、廃業される旅館からいただくことができましたんですよ。

丸藤 これからの夢は、

大野 子どもを育てていくうえで大切なのは優しくさかなと思っています。各世代が集まり触れ合う中から育っていくような集落にしていきたいですね。

古館 学生スタッフが卒業した後でも、でらこやがあるから函館に帰ってみようかなと思える、振り返られる場所になればいいなと思っています。

丸藤 集落なら、まさに故郷ですね。

古館 学生のボランティアは、たとえ1日だけの参加にしろ、もっとうしろにいいと思ってる人の集まっている場所というのが凄く強みだと思っています。まだまだ伸びる幅があります。だいたい月末にやっているの、一緒にやっていきたくという方をお待ちしています。

大野 何かひとつでも興味があれば足を運んで欲しいです。そこで色々と感じてください。年齢は関係ありません。大人のスタッフも絶賛募集中です。みなさんでつくりあげていくものだと思います。

次回は平成30年
 1月25日開催
 高龍寺梁川法務所
 で17:00~受付です

 問い合わせ先
 080-1668-9472
 (担当:古館)
 haodate.terakoya
 @gmail.com